

首に鐘木の如く、横木あるをいへば鐘木杖といふ鹿杖とは別なるを、同物の如くにも注し載られたるは、鹿杖の首には、なべて横木をものする例なりつるから、横首杖を併せて加世都惠とは訓めるなり、

〔倭名類聚抄行旅具十四〕鐵杖。唐韻云、鑿音與罷同、和名加奈都惠。大鐵杖也。

〔古今和歌集七〕仁和のみかど光のみこにおはしましける時に、御おばのやすむの賀に、まろがねを杖につくれりけるを見て、かの御おばにかはりてよめる、  
僧正遍昭

千早振神のきりけんつくからに千年の坂もこえぬべらなり

○按ズルニ、年賀ノ時ニ杖ヲ贈ル事ハ、禮式部算賀篇ニ在リ、

〔名物六帖器財五〕履杖ハトツケ杖以ニ鳩鳥爲ニ飾ニ杖圓漆之矣杖國端李陸隴彌杖前所奉方杖衣植青藜杖杖叩聞而進杖赤藤杖

杖正字通杖宋建隆初置杖利具杖以處退兵杖復蒐强壯杖曰兵

〔大和本草九〕虎杖略杖中杖ヨク出来テ杖老タルハ杖トスベシ杖凡草木ノ杖ニシテ杖ヨキ物多シ杖桑ノ

杖櫛杖藜杖虎杖杖丈菊杖ダン杖竹等ナリ杖虎杖ハ杖最輕シ杖然ドモ杖折ヤスシ杖老人足杖ヨハキ杖人ハツクベカ

杖ラズ杖桐ト杖ト杖ノ杖ハ杖古人父母ノ杖喪ニ用之杖親アル人ハツクベカラズ、

〔雅遊漫録三〕杖

是老人の歩行を助く、少年の人と云ども、嶮山に躓り、長途を行には助となる竹藜、木の三ツの内、えらみ、つよくかるきを用ゆべし、古人の詩も銘も多し、山房十友譜には老友と號す、或は扶老ともいふ、

〔慶長見聞集六〕江戸にて老若つえつく事